



AFTERMATH: CRAFTS AND LESSONS OF INCIDENT RECOVERY

JUNE 28-JULY 3, 2009
HOTEL GRANVIA
KYOTO STATION, KYOTO, JAPAN

21st Annual FIRST Conference
KYOTO June 28-July 3, 2009



第 21 回 FIRST Annual カンファレンス 2009 年 6 月 28 日～7 月 3 日 京都

多角的視点 — 民間、商業、犯罪

「事前復旧 (precovery)」 — 発生前の危機への対応

火事と虹 — 災害からの学び方

FIRST : the Forum of Incident Response and Security Teams

いつの日か、世界のどこかに災害がもたらされるのは確かです。

しかし、いつ、どこで、どのように起きるのかは、いつも不確かなのです。

原因が、自然現象、不注意、偶然、破壊行為、犯罪のいずれかであるかにかかわらず、残される結果はいつも同じです。

それは、犠牲、混乱、荒廃であり、それらに続く衝撃の余波と、二次被害、そして長く困難な復旧への道のりなのです。

世界を揺るがすマクロ的な衝撃は、さまざまな組織や地域社会にミクロの衝撃となって残響し、生じた危機は、形を変えて組織や地域社会に浸入し、混乱させ、麻痺させます。

通信ネットワークは災害救助や災害復旧における神経組織です。そして現代の通信の中心には常にコンピュータがあります。

コンピュータがしばしば攻撃対象になるのは、コンピュータの故障や誤作動が、組織あるいは社会の混乱を引き起こし得るからです。

FIRST は、コンピュータインシデントへの対応と復旧にかかわるチームや個人で構成される、世界でもトップクラスといわれる団体で、危機および危機管理に類のない実績があります。

京都で開催される 第 21 回 FIRST Annual カンファレンスでは、その FIRST に所属する世界中のエキスパートの協力によって、その知識と経験を蓄積し、プラクティスの向上を図ります。



FIRST のボランティアメンバは、ベストプラクティスを探求し、共有し、普及するという共通の「志」で結ばれた、コンピュータの緊急事態に関する一流のプロフェッショナルです。

京都のカンファレンスでは、ビジネスの中断や崩壊、一般市民への攻撃、犯罪的な破壊活動のすべてを取り上げます。

貴重講演を含め、専門分野ごとに詳細な解説・議論を行う分科会など、約 50 のセッションで、インシデント、インシデント対応、およびインシデント復旧の検討と分析を包括的に扱います。

THE SAMURAI THEMSELVES HAD GONE THROUGH QUITE A CHANGE...THOSE WHO HAD SECURED THEIR JOBS LONG AGO HAD CEASED TO BE WARRIORS.THEY HAD BECOME ADMINISTRATORS OR WHITE COLLAR WORKERS..
AKIRA KUROSAWA

引用:「Akira Kurosawa Interviews」、ミシシッピ大学、ジャクソン、2008 年





AFTERMATH: CRAFTS AND LESSONS OF INCIDENT RECOVERY

JUNE 28-JULY 3, 2009
HOTEL GRANVIA
KYOTO STATION, KYOTO, JAPAN

21st Annual FIRST Conference
KYOTO June 28-July 3, 2009



京都には 1000 年以上もの間、朝廷がおかれていました。京都は、現在でも日本文化の中心地です。

京都の建築や遺産が、繰り返されてきた社会的、政治的な大変動を乗り越えてきたのは、京都という都市自体が持つ回復力のおかげなのではないでしょうか。

日本はインシデント復旧における世界の模範といえるでしょう。何世紀にもわたり、災害、攻撃、内乱、破壊から、再び繁栄と調和を取り戻す道を繰り返し見出してきたのです。

素晴らしいことに、今回は偶然に時期が重なり、本カンファレンスが閉会を迎えると、京都では祇園祭が始まります。祇園祭は、約 1100 年前に始まった、火災、洪水、地震、疫病をもたらす神々を鎮めるための清めの祭礼です。

FIRST は 2009 年に京都に招かれたことを光栄に思います。そして感謝の気持ちを胸に、災厄を防ぐための祭礼への供物として、いくつかの実用的な提言を検討し、共有し、まとめ、公表することを約束します。

本カンファレンスに参加する FIRST の代表団は、インシデント復旧について議論し調査するだけではなく、より良いセキュリティのグローバル化や、インシデント対応チームと法執行機関等との連携に向け、その先駆的な活動を継続します。

通信システムの高度化が進むにつれ、システムダウンの可能性もまた複雑さを増しています。人々がこれまで経験し、目撃してきた大惨事の数々は、人類の知恵や工夫をどれほど集めても、混乱に支配され、災害に阻まれるのを食い止められないことを示しています。インシデント復旧やセキュリティ計画を担当する方、あるいはかかわる方々は、京都で開催される FIRST の第 21 回カンファレンスへの参加をぜひご検討ください。

また、今回の日程には次のプログラムが含まれます。



Toji Temple

- ギークゾーン (Geek Zone) — 技術指向の参加者を対象とした少人数 (30 人以下) の参加型プレゼンテーションです。
- ベンダ展示 (Beer'n Gear) — ベンダによる機器のデモを実施します。
- SIG (Special Interest Group) — 特化した議題について、少人数で議論します。

なお、2009 年度のカンファレンスでは、参加者の意見交換のための時間をこれまでよりも多く日程に盛り込んでいます。





AFTERMATH: CRAFTS AND LESSONS OF INCIDENT RECOVERY

JUNE 28-JULY 3, 2009
HOTEL GRANVIA
KYOTO STATION, KYOTO, JAPAN

21st Annual FIRST Conference
KYOTO June 28-July 3, 2009



FIRST について — 英国の著名な評論家 David Lacey 氏 [Computer Weekly より]

数あるセキュリティ関連の集まりや団体・組織のなかで、私がかつても感銘を受けたのは FIRST <http://www.first.org/> である。それはなぜか。目的が明確で、実際のビジネスの要求から生まれており、えり抜きであるためだ。つまり、メンバになるためには推薦を受け、監査を受けなければならない。FIRST は自らの運営者のために利益を上げる団体ではない。実質のある目的、すなわち政府、産業界および学界がセキュリティ上の新しい脅威に迅速かつ効果的に対応できるように支援する、国際的な団体である。

したがって、みなさんが忙しいスケジュールを調整し、FIRST の Annual カンファレンスに参加されることをぜひお勧めしたい。---

FIRST について

1990 年に設立された FIRST (Forum of Incident Response and Security Teams) は、さまざまなセキュリティおよびインシデント対応チームと製品セキュリティに関するチームから成る国際的非営利団体です。現在では、世界各国の政府、教育機関、企業、金融機関を代表する 200 を超えるメンバチームが参加し、FIRST は、グローバルな対応を行うコミュニティの中で、第一線に立ちセキュリティを実現する団体となっています。また FIRST は、ベストプラクティスや、ツール、メンバチームとの信頼できるコミュニケーションを提供しています。

FIRST の目的

- チーム間および国際社会全体とのよりよいコミュニケーションと情報共有の促進
- インシデント防止における協力と連携の育成
- インシデントへの迅速で素早い対応

カンファレンスへの参加条件

FIRST のメンバでない方も第 21 回 Annual カンファレンスに参加できます。組織がどのようにコンピュータセキュリティインシデントに対応すべきかを調整する責任を担う、インシデント対応およびセキュリティチームやセキュリティ専門家の方々は、ぜひご参加ください。また、カンファレンスは次のような方にも興味深い内容となっています。

- セキュリティ製品の要件を決定し解決策を実施する技術スタッフ
- 全般的なセキュリティ上の責任を有する政策立案者および意思決定者
- サイバー犯罪の調査にかかわる法執行機関スタッフ
- セキュリティ政策作成のために、政策立案者や意思決定者と仕事を行う弁護士
- 企業インフラの保護を直接担当している上級管理監督者
- システムおよび重要インフラの保護に対して責任を持つ政府の管理監督者や上級役員

これまでのカンファレンスでは、IT 管理監督者、システム/ネットワーク管理者、ソフトウェア/ハードウェアベンダ、セキュリティソリューション提供会社、ISP、電気通信プロバイダ、コンピュータやネットワークセキュリティの担当者などが参加しました。





AFTERMATH: CRAFTS AND LESSONS OF INCIDENT RECOVERY

JUNE 28-JULY 3, 2009
HOTEL GRANVIA
KYOTO STATION, KYOTO, JAPAN

21st Annual FIRST Conference
KYOTO June 28-July 3, 2009



カンファレンスの参加メリット

FIRST のカンファレンスは、CSIRT（コンピュータセキュリティインシデント対応チーム）の世界的な連携と協力を推進します。カンファレンスでは、世界規模でのコンピュータセキュリティの強化を目的とした目標、意見、情報を共有するための公開討論が行われます。5 日間にわたって開催される今回のイベントは、2 日間のチュートリアルセッションと 3 日間のテクニカルセッションで構成されています。これらのセッションでは、このグローバルなインシデント対応コミュニティの各チームが関心を寄せるさまざまな議題が話しあわれます。

第 21 回カンファレンスに参加すると、インシデント復旧に対する FIRST の重点的取り組みを共有できるだけでなく、以下のようなメリットがあります。

- インシデント管理における最新のセキュリティ戦略を学べる
- セキュリティ問題とその解決策に関する知識を増やし技術的洞察力を高められる
- インシデント対応およびインシデント防止技術に関する最新情報が得られる
- ネットワークの脆弱性分析に関する知見の習得
- 業界の専門家がどのようにセキュリティ問題を管理しているのかを知ることができる
- 世界各国からの参加者と交流を図りネットワーク作りをして、インシデント対応について意見やアドバイスの交換ができる

開催場所

第 21 回 FIRST Annual カンファレンスは、京都駅のホテルグランヴィア京都で開催されます。カンファレンスの参加者は、21,500 ～ 25,000 円の割引宿泊料金（部屋のタイプや到着日、出発日により異なります）で部屋をご予約いただけます。割引料金は、カンファレンス開催期間の前後 4 日間まで適用され、部屋がなくなり次第締め切りとなります。割引料金の適用を受けるには、2009 年 6 月 1 日までに予約を行い、予約の際に FIRST コンピュータセキュリティカンファレンスに参加する旨を伝えてください。6 月 1 日以降の予約は、空室状況と提供可能な料金に基づいての受け付けとなります。予約は必ずホテルグランヴィアのオンライン予約サービス経由で、指定されたパスワードを使用して行ってください。オンライン予約の受け付けは 2009 年 1 月 1 日～ 6 月 1 日までです。オンライン予約サービスへのリンクとパスワードについてはカンファレンスの Web サイトをご覧ください。

ホテルグランヴィア京都の詳細情報：<http://www.granviakyoto.com>

お問い合わせ先：電話 075-344-8888





AFTERMATH: CRAFTS AND LESSONS OF INCIDENT RECOVERY

JUNE 28-JULY 3, 2009
HOTEL GRANVIA
KYOTO STATION, KYOTO, JAPAN

21st Annual **FIRST** Conference
KYOTO June 28-July 3, 2009



グローバルなコンピュータセキュリティネットワークに今すぐに参加を

このカンファレンスが、これまでで最高のカンファレンスとなることをお約束します。ぜひともこの機会を逃さずに、今すぐ申し込みを済ませて、日々の業務にご活用ください。

FIRST に関する詳細情報 : www.first.org
カンファレンスに関するお問い合わせ先 : first-2009@first.org
カンファレンス参加お申し込み : www.first.org/conference/2009

スポンサー募集

参加者にとって魅力ある手頃な料金とするために、非営利法人 FIRST.Org Inc. では、カンファレンスのスポンサーをタイプ別に募集しています。FIRST のミッションを支持し、世界のコンピュータセキュリティの向上にご尽力いただける後援団体を募集しています。

スポンサーの方は、割引料金でカンファレンスにご参加いただけます。

詳細情報 :

www.first.org/conference/2009/sponsorship.html

報告

さっき火事だとさわぎましたのは虹でございました
もう一時間もつづいてりんと張って居ります

引用:宮沢賢治詩集 春と修羅 グランド電柱

SEEMS THAT FIRE WHICH HAD US JUMPING
WAS A RAINBOW TENSED ACROSS THE SKY
FOR A WHOLE HOUR

KENJI MIYAZAWA

